



立花町文化財調査報告書第4集

小倉谷横穴群

立花町大字北山字茶臼塚所在横穴群の調査概報

1991

立花町教育委員会

序

平成元年11月から小倉谷横穴群の発掘調査を開始し、今回、一応の調査を終わり、中間報告書を作成させていただくことにいたしました。小倉谷横穴群は、出土品の価値も勿論ありますが、学術的にみた場合、内部構造そのもの、つまり、遺体埋葬構造、部屋の作りに価値があると言われています。

築造は、6世紀後半から7世紀中頃と言われてますが、この頃は、南筑後が九州の北部地方の影響を受けていたか、南部地方（肥後文化）の影響を受けていたか、はっきりしない時期にあったと言われています。それが今回の発掘調査により、玄室の築造構造から、肥後文化の影響を受けた横穴もあったと判断されています。この意味で、この度の発掘は誠に意義があったと思っております。

これを契機にまた、町民の方々が、本町の埋蔵文化財に対して一層関心を持たれ、これらを愛護していただくことを念じるものであります。

今回もまた、南筑後教育事務所の先生はじめ、広川町の佐々木先生、地権者の方々、発掘作業を手伝っていただきました多くの方々のご指導・ご協力をいただきました。厚くお礼を申し上げます。

平成3年3月30日

立花町教育委員会 教育長 末継敬一郎

例 言

- 1 本書は、個人の土取り作業に伴い破壊される、通称・小倉谷横穴群（県遺跡分布地図No.72 0077-720081）の発掘調査概報である。
- 2 調査は、平成元年度から2年度の国庫補助を受け、立花町教育委員会が事業主体となり福岡県教育委員会の援助を受けて実施した。
- 3 遺物は、現在九州歴史資料館で整理中であり、本報告は平成3年度に刊行する予定である。写真撮影は、横穴内部は九州歴史資料館の石丸洋技術主査にお願いし、他は佐々木が撮影した。
- 4 本書の編集・執筆は佐々木が担当した。

本文目次

I はじめに.....	1
II 位置と環境.....	1
III 横穴群の調査.....	3
1 調査の概要.....	3
2 出土遺物.....	4
IV おわりに.....	6

I はじめに

小倉谷横穴群は、昭和62年頃から土取りが開始され、そのつど町の単費で調査を実施してきた。町費で調査したのは総数3基を数えるが、個人の土取りのため暫時的な調査では遺跡の全容が把握しにくく、地権者及び町教育委員会、福岡県教育庁南筑後教育事務所と協議の結果、平成元年度から国庫補助を受け本格的な調査をすることとなった。

初年度は、地元での聴き取り調査から実施し、横穴が開口していた時点の分布状況を把握した後、発掘調査を実施することとした。第3次調査は丘陵の南西斜面を対象としたが、中腹には農道が走っており、その下は調査不可能であった。

第4次調査は丘陵の頂部にある一群を調査対象にした。ここでも農道の関係で丘陵の下半は調査できず、町教育委員会と協議し農道部分は別途調査をすることとした。

調査期間 第3調査・平成元年11月6日～2年1月25日 第4調査・平成3年1月8日～3年2月5日

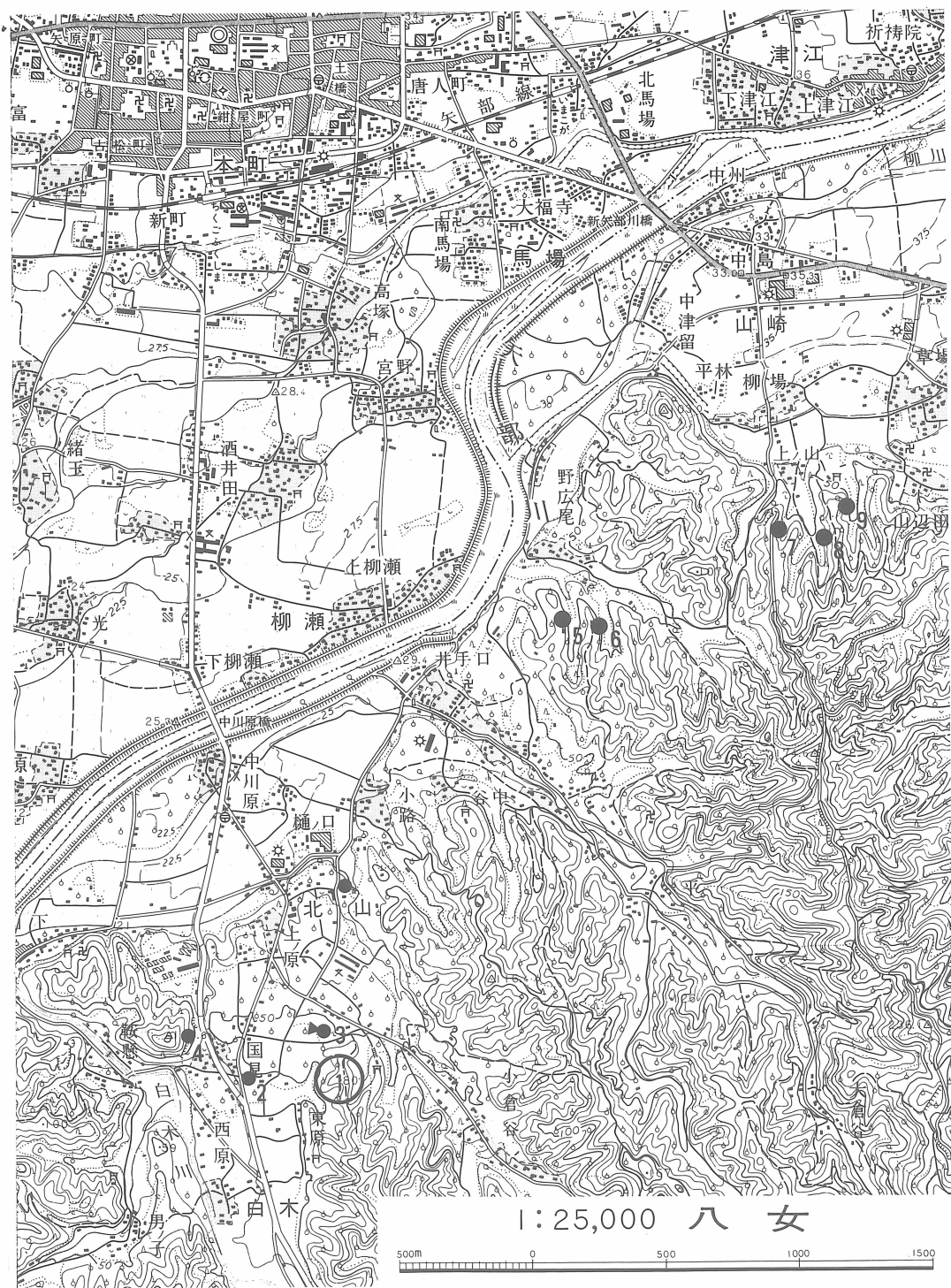
調査関係者は下記のとおりである。

調査責任者	立花町教育委員会	教育長	末継敬一郎			
	同	社会教育課	課長	川島清蔵(前任)	社会教育係主査	田島一子(前任)
		同		田代晴繁	同主査	中尾八重子
		同	課長補佐	平島五男	主任主事	今村高一
		同和教育	係長	久保俊治	同主事	原 亮一(前任)
調査担当者	福岡県教育庁文化課	技術主査			木下 修	
	同	筑豊教育事務所	同		新原正典	
	同	南筑後教育事務所	同		佐々木隆彦(調査担当)	
	福岡県文化財保護指導委員				佐々木四十臣	

II 位置と環境

小倉谷横穴群は、福岡県八女郡立花町大字北山字茶臼塚に所在する。

遺跡は、飛形山(標高449.9m)から北西に派生する無数の丘陵上の一角に位置し、北に位置する大倉谷に対して通称小倉谷と称されている。この辺りの丘陵は、鬼隈横穴群が存在する一帯の丘陵が硬質砂岩で形成されるのに対して、雲母片岩或いは緑泥片岩で形成される。横穴は矢部川を境に左岸に集中し、八女市側には無いとされていたが、最近数基の横穴墓が発見された。矢部川の左岸は弥生時代から中世の遺跡が密集する所で、特に古墳や横穴群が顕著に見られる。とりわけ、現在発見されている横穴群は大別して3カ所に別れ、鬼隈・中通・上の山横穴群、野広尾・稲荷山横穴群、小倉谷横穴群である。小倉谷横穴群の周辺には茶臼塚(前方後円墳)、大塚古墳(円墳)があり、両者とも6世紀代の古墳で隣接する小倉谷横穴群とはほぼ同時期に比定されることから、有機的な結合関係にあったことが推測される。



- | | | | | |
|----------|----------|---------|----------|----------|
| 1 小倉谷横穴群 | 2 大塚古墳 | 3 茶臼塚古墳 | 4 上の原古墳群 | 5 稲荷山横穴群 |
| 6 野広尾横穴群 | 7 上の山横穴群 | 8 中通横穴群 | 9 鬼隈横穴群 | |

第1図 小倉谷横穴群遺跡と周辺主要遺跡分布図

III 横穴群の調査

(1) 調査の概要

第3次調査 横穴群が築かれている場所は、丘陵の南西斜面に位置し大きく挟れた谷部の一角にある。約2.5カ月の調査であったが検出した横穴墓は総数20基を数え、丘陵の頂部の横穴墓は墓道のみを残す。このうちの3号墓は昭和63年に調査（第2次調査）済で、刀子・鉄鏃・金銅製の耳環・玉類などが出土した。昭和62年には土取り作業中に2基の横穴墓が発見され急速調査（第1次調査）した経緯がある。横穴墓が築かれている地形は「L」字状の谷部に当たり、この部分の地山は雲母片岩系の岩盤で構成されている。南斜面は岩盤の状態が良好なこと、斜面が良好なことなどの好条件から特に密集しているが、22号から北側は赤色土の地山で構成されているため横穴墓は営まれていない。既に土取りされていた北東側に横穴墓が存在したか否かは定かでないが、地形から判断すれば存在の可能性は薄い。

個別横穴墓をみると玄室の平面形状は方形（胴張り方形も含む）、長方形、不整楕円形などがあるが、大半が方形を呈し、長方形は15・19号の2基のみで、22号の不整楕円形は小児用の墓である。また、複室構造のものと単室構造のものがあり、後者の横穴が圧倒的に多く、複室の横穴は10・14号の2基のみである。

立面形はドーム形・家形の2種類があり、ドーム形が大半で家形は5・16号の2基を数えるに過ぎない。家形は2基とも寄棟造りで、平入りと妻入りの2種類がある。16号は軒の部分の一部省略する。

床面には扁平な川原石を敷き詰めており、敷石の措置を施していない横穴は17・22号の2基である。屍床は石敷きのみのももの他、奥壁に対して並行に間仕切りを削り出すタイプ、「コ」状に削り出す所謂肥後タイプの横穴がある。

羨道は長く造るタイプ、短いタイプ、細いタイプがあり、飾縁はアーチ形、台形、方形などバラエティーに富んでいる。飾縁部には人頭大の川原石や緑泥片岩で閉塞していた。

前庭部は数基で共有するものと単独とがあるが、前庭部と墓道の区別が不明瞭な横穴がある。8号から11号は前庭部を共有するが、9号のように一段高所に設けたため岩盤を階段状に抉った例がある。

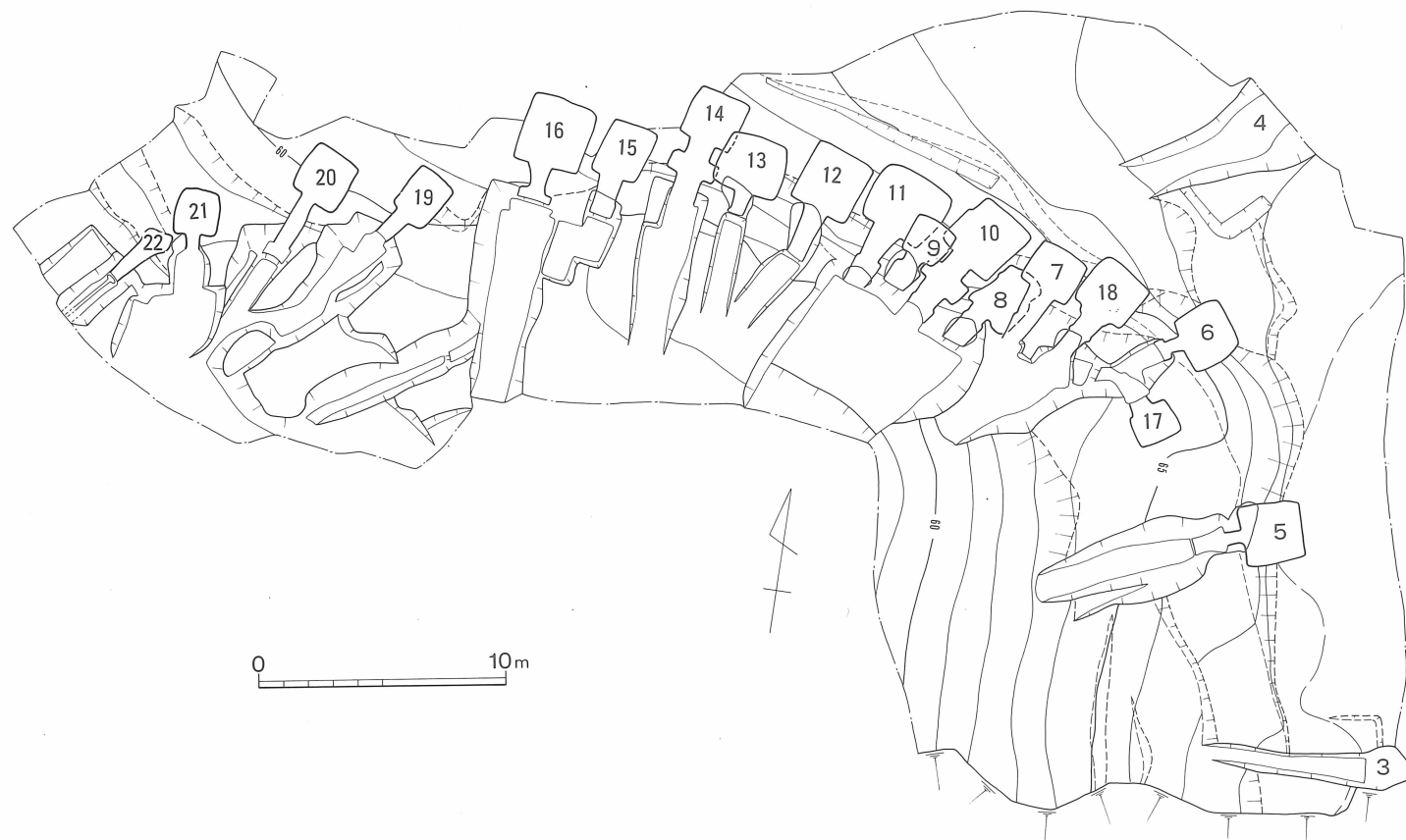
第4次調査 標高79.97mの頂部に営まれた横穴群で3基を調査した。農道下にも数基が存在しているが、現在農道として使用されているため調査が不可能である。調査した3基のうち2基は墓道を共有している。玄室は方形、長方形を呈する。

立面形はすべてドーム形である。3基とも盗掘を受け玄室内の出土遺物は無い。

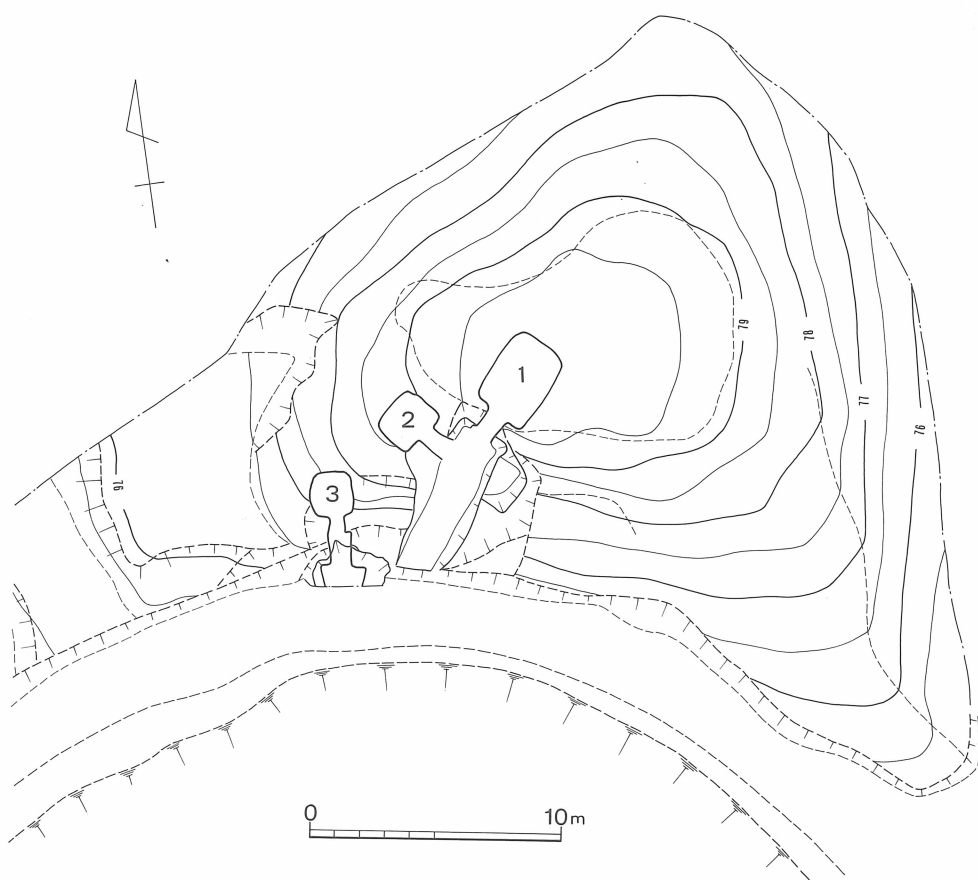
(2) 出土遺物

各横穴墓の出土遺物は下記のとおりである。

	土師器	須恵器	工 具	農 具	武 器	馬 具	装身具
第1次調査1号	○	○	○	—	○	—	○
第2次調査2号	○	○	○	—	—	—	—
第3次調査3号	—	○	○	—	○	—	○
4号	○	○	—	—	—	—	—
5号	○	○	—	—	○	○	—
6号	—	○	—	○	○	○	○
7号	—	○	—	—	○	○	○
8号	—	○	—	—	○	—	○
9号	—	—	—	—	—	—	—
10号	—	○	○	—	○	○	○
11号	○	○	○	—	○	○	○
12号	○	○	○	—	○	○	○
13号	○	○	○	—	○	○	○
14号	○	○	○	○	○	○	○
15号	○	○	—	—	○	○	—
16号	○	○	○	○	○	○	○
17号	○	○	—	○	—	—	○
18号	—	○	○	—	○	—	○
19号	○	○	—	—	—	—	—
20号	○	○	○	—	○	—	○
21号	○	○	—	—	—	—	—
22号	○	○	—	—	—	—	—
第4次調査1号	—	○	—	—	—	—	—
2号	—	—	—	—	—	—	—
3号	—	○	—	—	—	—	—



第2図 小倉谷横穴群配置図 (第3次調査、1/300)



第3図 小倉谷横穴群 配置図（第4次調査、1/300）

IV おわりに

小倉谷横穴群は、昭和62年度から平成2年度までの調査で総数25基の横穴を調査した。この丘陵には、未調査の横穴墓があり全体で30基をこす横穴群が存在すると考えられる。

立花町は、福岡県内でも数多くの横穴墓群が存在するところとして名高く、熊本県との県境でもあることから肥後文化の影響を色濃く残しており、学術的にも非常に注目されるところである。

今回の調査結果で肥後タイプの存在は無論のこと、周辺の茶臼塚古墳（前方後円墳）・大塚古墳（円墳）との関連性を考慮し、前方後円墳を享受したことで畿内大和政権との関わり、地域の盟主（茶臼塚）を頂点とした墓制のあり方を考える恰好の資料となろう。



(1) 小倉谷横穴群俯瞰



(2) 小倉谷横穴群全景

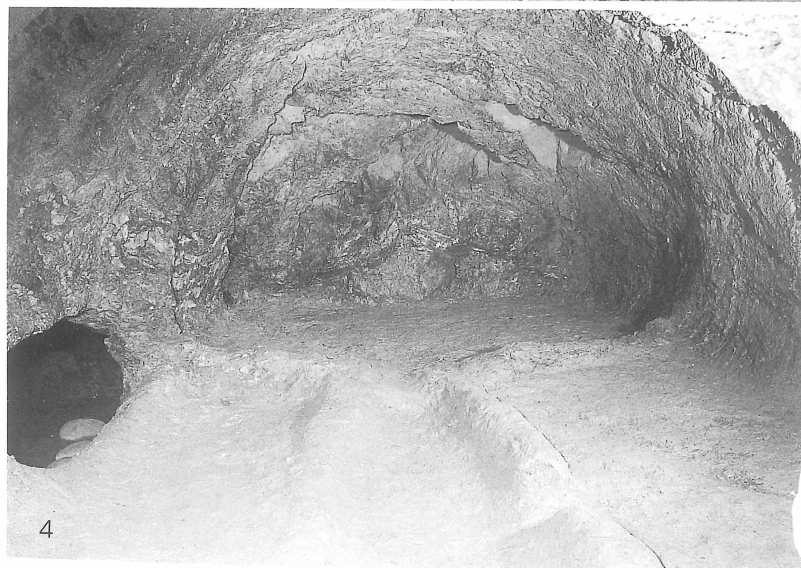
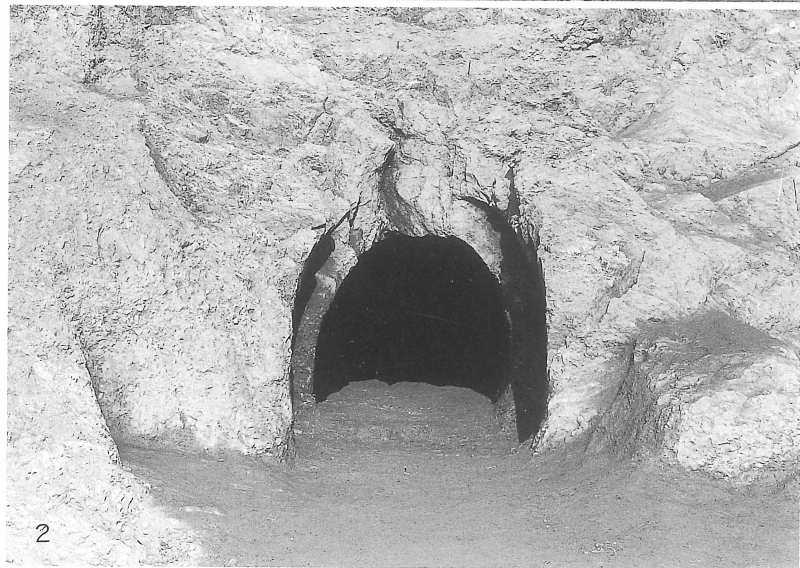
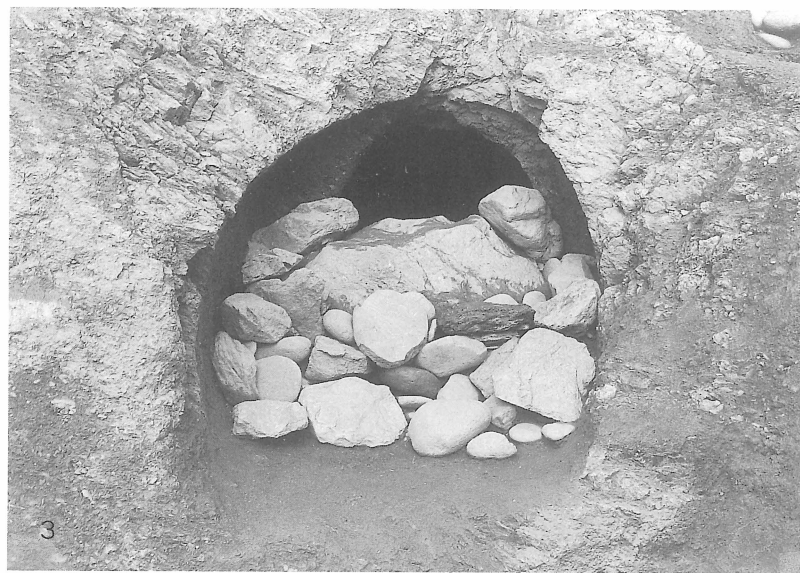
图版2



(1) 7~12号横穴墓



(2) 19~21号横穴墓

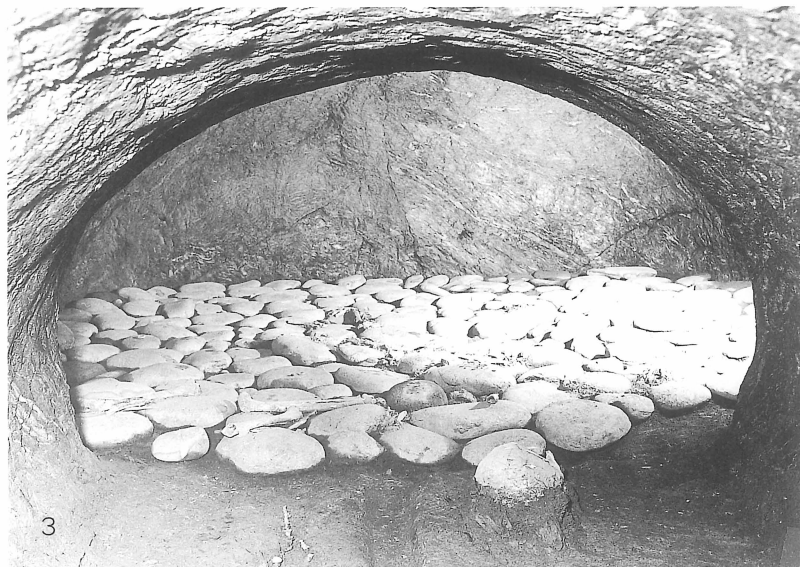


(1) 7号墓閉塞状態 (2) 7号閉塞除去後

(3) 8号墓閉塞状態 (4) 8号墓玄室



1



3



2



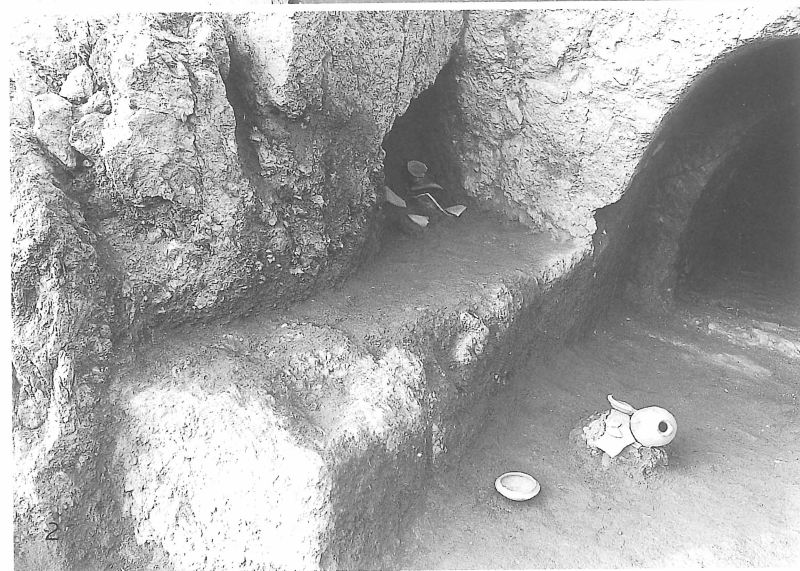
4

(1) 9号墓玄室 (2) 10号墓玄室

(3) 11号墓玄室 (4) 12号墓道遺物出土状态



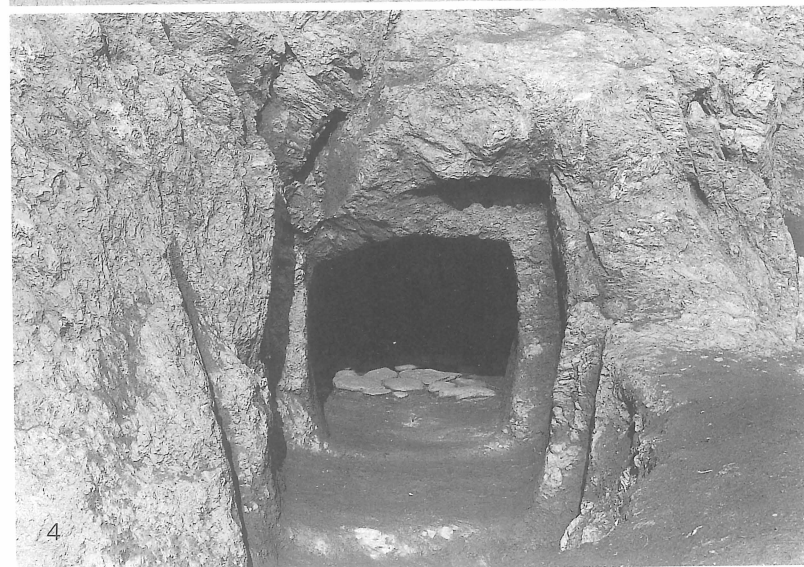
1



2



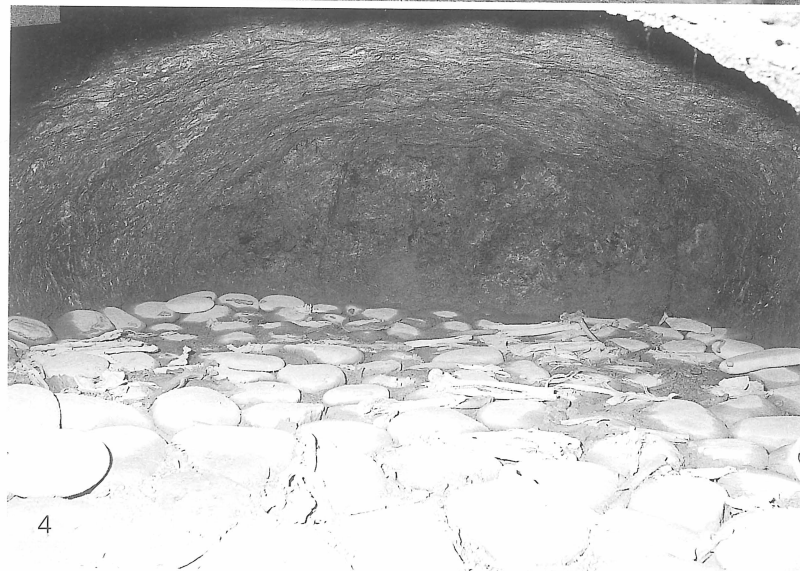
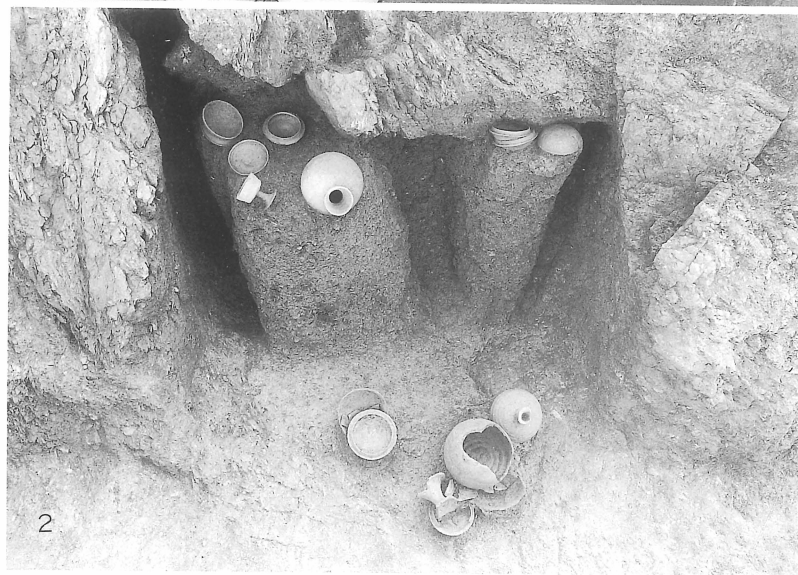
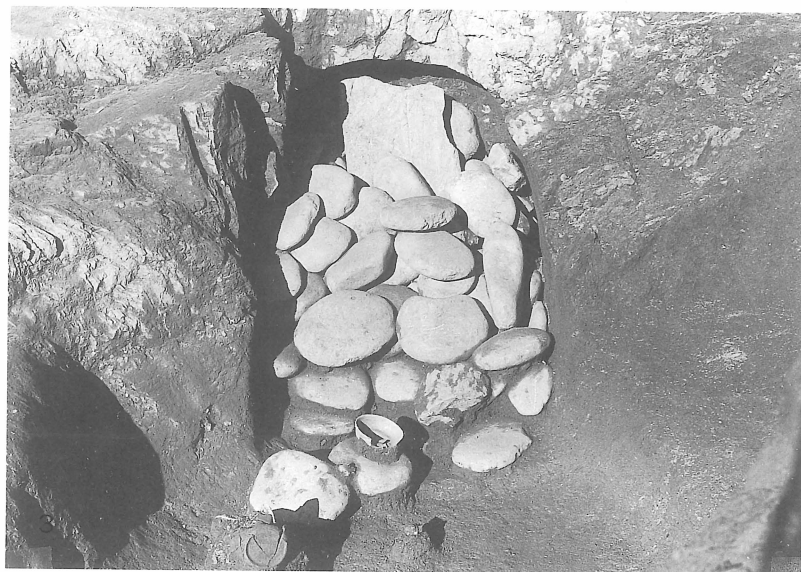
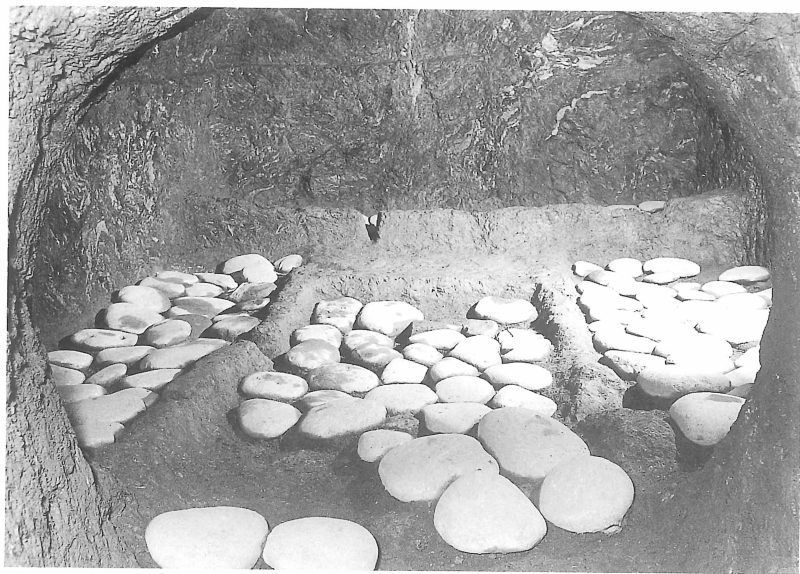
3



4

(1) 13号墓玄室 (2) 14号墓前庭部祭坛

(3) 14号墓玄室 (4) 15号墓飾縁



(1) 16号墓玄室 (2) 17号墓前庭部遺物出土狀態

(3) 18号墓閉塞狀態 (4) 18号墓玄室

小倉谷横穴群

発掘調査概報

平成 3 年 3 月 30 日

発行 立花町教育委員会
八女郡立花町大字谷川1130

印刷 川辺印刷有限会社
福岡市南区高宮1丁目7-19